

戸出東部小学校いじめ防止基本方針

1 基本理念

いじめは、いじめを受けた児童の人権を侵害する行為であり、その心身の健全な成長及び人格の形成に影響を与えるのみならず、人の命に関わる重大な問題です。

したがって、いじめの防止等の対策には、「いじめは人間として絶対に許されない」という強い認識をもち、学校、家庭、地域、教育委員会、その他児童の教育に関わる全ての者が連携し、いじめの問題を克服することを目指して行われなければなりません。

本校では、学校が全ての児童にとって安心・安全で、楽しく充実していると実感できる「心の居場所」となるよう指導体制の充実を図り、家庭や地域等と連携して、いじめの防止等に取り組みます。

さらに、児童自らが、いじめの問題を自分たちの問題として捉えることが大切であり、児童会によるいじめの防止等の主体的な取組を積極的に推進します。

2 いじめの防止等の対策

(1) いじめの未然防止

いじめはどの児童にも起こり得るという意識をもち、全ての児童を対象に、いじめに向かわせないための取組を行います。

児童の自主性を重んじ、いじめを自分たちの問題として捉え、いじめを生まないようにするための主体的な取組を支援し、児童一人一人のよさが発揮され、互いに支え合い、認め合う望ましい人間関係を育てます。

①児童理解と環境づくり

- ・ 基本的な生活習慣と学習規律の徹底を図ります。
- ・ 児童と接するあらゆる機会を通して、児童と積極的に触れ合うようにし、児童が発する小さなサインを見逃すことのないように内面の理解に努めます。
- ・ 規範意識を醸成し、「正義が通る学校」を目指します。
- ・ 定期的なアンケートや教育相談を全校で一斉に設定し、人間関係の把握に努めます。

②自尊感情を育み、互いを思いやる豊かな心の育成

○「いのちの教育」の推進

- ・ 全教育活動を「いのちの教育の場」とし、生命の大切さや生き方について考えさせることを通して、よりよく生きようとする態度や自他を尊重する心を育てます。
- ・ 道徳科の授業により、自己中心的な考え方や道徳的判断力の低さから起こるいじめを未然に防止します。
- ・ ソーシャルスキルトレーニングやアサーショントレーニングを取り入れ、人との関わり方や、コミュニケーションを図る能力を育てます。
- ・ 集団で行う活動を適宜取り入れ、好ましい人間関係を育てます。

○児童が主体となる取組の充実

- ・ 児童会が中心になって朝の挨拶運動を行い、よりよい人間関係を形成させます。
- ・ あったか言葉（感謝、励まし、ねぎらい、賞賛等）を推奨します。
- ・ 異年齢集団による集団登校、清掃活動、各種行事等（運動会）を利用して、互いを思いやる心や協力する心を育てます。
- ・ 一人一人に自己存在感や自己有用感を味わわせるような学校行事や児童会活動、ボランティア活動等の充実を努めます。
- ・ 児童の見取りについて教職員で共通理解を図ることで、同じ視点で児童のよさを見付けるようにします。

③家庭や地域等との連携

- ・ 戸出東部小学校いじめ防止基本方針を公表し、保護者や地域の理解を得るよう努めます。
- ・ 学習参観や学年懇談会、学校だより、ホームページ等による広報活動により、いじめ防止対策や対応についての啓発を行います。
- ・ P T Aや学校評議員等と協力して、地域ぐるみのいじめ防止対策を進めます。
- ・ ネットいじめを防止するため、SNS（LINE、Twitter、Youtube等）の適切な利用方法を含む情報モラル教育を計画的に進めます。

(2) いじめの早期発見

ささいな兆候であっても、いじめではないかとの危機意識をもち、軽視することなく、積極的に関わります。

また、早い段階からチームを組んで適切に対応します。

①日常的な観察

- ・授業時は、担任が早めに教室等へ行ったり、活動時は師弟同行に努めたりして、児童の様子を把握します。
- ・教職員間の日常的な情報交換の習慣化を心がけます。また、児童の小さな変化に対しても迅速な報告・連絡・相談に努めます。

②アンケート調査

- ・児童対象の学校生活に関するアンケートを学期に1回行い、児童の悩みや人間関係を把握し、いじめゼロの学校づくりを目指します。同様に保護者を対象としたアンケートも実施します。

③教育相談

- ・児童全員へ定期的な個人面談を実施します。（年3回）
- ・日常生活の中での教職員の声かけなど、児童が日頃から気軽に相談できる環境をつくります。

(3) いじめへの対処

いじめを発見した場合や通報を受けた場合、直ちにいじめを受けた児童の安全を確保し、いじめ対策委員会において組織的な対応を行います。

また、必要に応じて教育委員会や関係機関等と連携して対応します。

①いじめの発見・通報を受けたときの対応

- ・児童や保護者からいじめの相談や訴えがあった場合には、真摯に受け止め傾聴します。
- ・いじめられた児童やいじめを知らせた児童の安全を確保します。
- ・発見・通報を受けた教職員は一人で抱え込まず、直ちに、いじめ防止対策委員会で情報を共有します。
- ・いじめ対策委員会が中心となり、役割分担して速やかに関係した児童から事情を聴き取るなどして、いじめの事実確認を行います。
- ・事実確認の結果は、教育委員会に報告するとともに、被害・加害児童の保護者に連絡します。
- ・犯罪行為として取り扱われる可能性のある事案については、警察に相談又は通報し、連携して対応します。

②いじめられた児童及びその保護者への支援

- ・スクールカウンセラー等と連携し、いじめられた児童の心のケアや保護者への支援を行います。
- ・いじめられた児童が安心して学習やその他の活動に取り組むことができるよう、複数の教職員の協力の下、当該児童の見守りを行うなど、環境を整えます。

③いじめた児童への指導及びその保護者への助言

- ・いじめがあったことが確認された場合、いじめられた児童やその保護者への謝罪、いじめた児童への指導等について、保護者と連携して適切に対応します。
- ・いじめた児童への指導に当たっては、いじめは人格を傷つけ、生命、身体又は財産を脅かす行為であることを理解させ、自らの行為の責任を自覚させます。
- ・いじめた児童が抱える問題等、いじめの背景にも目を向け、必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携し、当該児童の健全な人格の発達に配慮した対応を行います。

④いじめが起きた集団への働きかけ

- ・いじめを見ていた児童に対しても、自分の問題として捉えさせます。たとえ、いじめを止めることはできなくても、誰かに知らせる勇気をもつよう指導します。
- ・はやしたてるなど同調していた児童に対しては、それらの行為はいじめに加担する行為であることを理解させ、決してしないように指導します。

⑤ネット上のいじめへの対応

- ・ネット上の不適切な書き込み等については、被害の拡大を避けるため、当該児童に指導するとともにその保護者に連絡し、直ちに削除させます。
- ・児童の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるおそれがあるときは、警察に相談し、連携した対応をとります。

(4) いじめの再発防止

同じ児童が被害者となるいじめが再発したり、いじめのターゲットが変わっていじめが続いたりすることを防ぎます。

また、事案について検証し、同様の事案が発生しないよう必要な対策を講じます。

① 児童の見守り

- ・いじめが解決したと思われる場合でも、継続して十分な注意を払い、折にふれ必要な指導を行います。
- ・児童の変化を定期的に確認・検証します。必要に応じて支援策を修正し、支援を継続して行います。

②再発防止の取組

- ・互いを思いやり、尊重し、生命や人権を大切にする指導等の充実に努めます。
- ・道徳科や学級活動の時間にいじめに関わる問題を取り上げ、指導を行います。

3 いじめ対策委員会

(1) 構成員

- ・校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、特別支援教育コーディネーター、学年主任、養護教諭、その他関係する教職員
- ・学校評議員、PTA会長、その他関係する団体代表者（スポーツ少年団、学童保育等）

(2) 役割

- ・戸出東部小学校いじめ防止基本方針に基づく取組の実施と進捗状況の確認、見直し
- ・教職員の共通理解と意識啓発（校内研修等）
- ・児童や保護者・地域に対する情報発信と意識啓発、意見聴取
- ・いじめやいじめが疑われる行為を発見した場合の相談窓口
- ・いじめ事案の調査と対応

4 年間計画

月	取組	月	取組
4	・いじめ対策委員会 ・校内研修（共通理解）	10	・アンケート調査 ・教育相談（全員面談）
5	・アンケート調査	11	・保護者アンケートの実施
6	・教育相談（全員面談）	12	・人権週間 ・いじめ対策委員会
7	・保護者アンケートの実施 ・いじめ対策委員会	1	・アンケート調査
8	・校内研修（事例研究） ・問題行動等調査の分析	2	・教育相談（全員面談）
9	・校内研修	3	・学校評価の結果集計、考察 ・いじめ対策委員会

5 評価と改善

- ・学校評価にいじめ防止対策に関する項目を設け、評価を行います。
- ・「いじめの問題への取組についてのチェックポイント（学校用）」を活用し、学校の取組について評価し、改善を図ります。
- ・本基本方針に基づく取組については、いじめ対策委員会において協議し、必要に応じて適宜見直しを行います。